



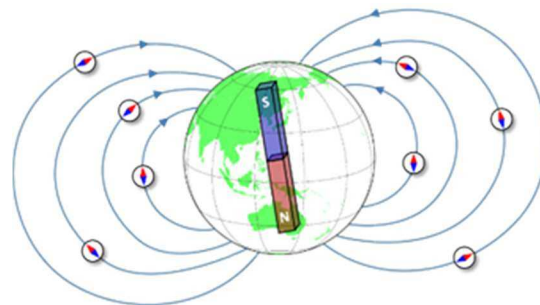
地図と「地磁気」って関係あるのかなあ……

国土地理院は「地磁気」も測っているんじゃ
詳しい人に聞いてみよう



【地磁気とは】

磁石の同じ極は反発し、異なる極は互いに引き合います。これは、磁石のまわりで目に見えない力（磁力）が働いているからです。地球は北極付近がS極、南極付近がN極の巨大な棒磁石のような性質を持っていますが、この地球の磁力が及ぶ空間を「地磁気」といいます。北極や南極で見られる美しいオーロラも、実は地磁気と太陽からの粒子によって演出されているんですよ！地磁気が発生する仕組みは実は完全には分かっていませんが、地球内部の外核と呼ばれる部分が対流しているからだと考えられています。その流れ方は一定ではないので、地磁気も場所や時間によって常に変化しています。



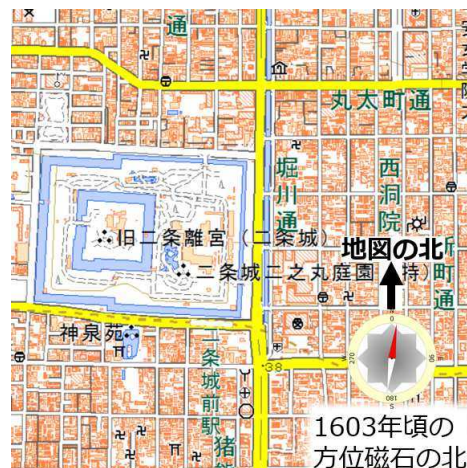
地球は大きな磁石

さて、私たちは方角を知るときに方位磁石を使いますが、実は地図の北と方位磁石の北は同じではありません。このような方位磁石の北と地図の北との角度のずれのことを「偏角」といいます。偏角も地磁気の変化に伴い場所や時間によって変化します。例えば、現在日本周辺での偏角は平均して西向きに8度ですが、約350年前には逆に東向きに約8度だったことがわかっています。1603年に築城された二条城のお堀は、南北軸が東に約3度傾いています（下図）。これは、当時方位磁石を用いて南北方向を決めたためだといわれています。

登山などをする際に正しい偏角の情報を知らないと地図の向きが分からず道に迷ってしまうかも…。そのため国土地理院では、地図を安心して使えるように、全国で観測した偏角などの情報を提供しています。地理院地図で、全国の偏角の値を公開していますので、気になる場所の方位磁石のずれをチェックしてみてくださいね。

※二条城付近の地理院地図：

http://maps.gsi.go.jp/#13/35.009823/135.738316/&base=std&ls=std%7Cjikizu2015_chi_jiki_d&blend=0&disp=11&lcd=jikizu2015_chi_jiki_d&vs=c1j0l0u0f0



二条城のお堀